

## 未来

函館市医師会  
小笹内科医院

お ざ さ      あ き ら  
小 笹      明

40数年前、『中国社会主義建設における「紅」の路線と「専」の路線』という卒業論文を書いたことがあります。なぜ中国かという、アーノルド・J・トインビーという歴史家がありました。文明は生成、成長、発展、没落を繰り返しているとのことであり、20世紀はアメリカの時代であったが、21世紀はアジアの時代になるとのことでした。中国が遅れた社会であることに希望を持っていました。農業と工業とが調和を保って発展すれば、環境問題や経済格差等のない理想的な社会が実現するのではないかと考えられたことと思います。折しも1966年プロレタリア文化大革命が中国で起こりました。これは、毛沢東、周恩来らが主張する政治優先の「紅」の路線と劉少奇、鄧小平らが主張する経済優先の「専」の路線との対決でした。この時は、毛沢東派が勝利しましたが、毛沢東没後、毛派は粛清され以後鄧小平が実権を握りました。その流れが今の習近平につながっています。

ニュースにて天安門に掲げられた毛沢東の肖像の前を習近平が人民服を着てパレードする姿を見る時、今の中国の矛盾を感じます。私は北海道には未来があるように思います。大きな大地と程良い人口ですから自然と調和した町作りができるのではないかと考えます。また昨今の世界情勢を見ていると今後世界はどう変わっていくのかと考えます。今世界で起こっている紛争を考える時、どこに問題があるのでしょうか。民族主義がいけないのか、宗教がいけないのでしょうか。トインビーは、宗教についてキリスト教やイスラム教は「距離の克服」によって、「一つの世界」が実現しつつあるという今日は、仏教やヒンズー教から一つの教訓を学ぶべきである。インド的な諸宗教はユダヤ的な諸宗教とは違い、排他的ではない。それらは、そのいずれにも「実存」の神秘に接近しうる可能性を認めている。わたくしはこの方が、ユダヤ教やキリスト教やイスラム教の自らをもって唯一にして最終的な啓示にほかならずとする主張よりも遙かに真実性に富んでいるように思う。また、隣国で起こっている紛争を見る時、理性とは何かと考えることがあります。シェストフは、理性について次のように述べています。理性が万物の根拠でありそして万物が理性であるならば、もし理性を棄て理性を憎むことが不幸の最大のものであるならばと。

## コメディカル教育

北海道大学医師会  
北海道大学

さ と う      ひ ろ き  
佐 藤      浩 樹

10数年前に臨床現場を引退し、現在はコメディカル（診療情報管理士、臨床工学技士）をめざす大学生に臨床医学を教えています。目の当たりにする相手は、臨床現場の時は患者さんのため平均年齢は75歳をゆうに超えていましたが、現在は平均年齢20歳前後です。ずいぶん若返りました。

学生に知識を与えることがメインなので一方通行の仕事と感じていました。でも最近、学生から元気をもらっているなあと感じ始め、決して一方通行ではないことに気づきました。講義で長時間立っていると、ふと疲れを感じ“年には勝てない”と感じることもあります。健康寿命を延ばすにはうってつけの方法と考えがなばろうと思っています。

最近の学生を見ていて思うこと。なんでも早く時間をかけずに終わらせることに幸せを感じている、とつくづく思うようになりました。調べる道具はインターネット、連絡手段はメールかLINE、短時間で勉強を終わらせたいので希望する教材はマニュアルなどなど。でも学生だけではないんですね。世の中を見てみると、料理は時短レシピが人気、飛行機や電車の速度は速い方が評価される。学生も含め皆さん忙しいんですね。

でも、これから先、「早いことがうれしい」を当たり前と感ずることが本当に良いことなのか、と疑問に感じます。休みたいので早く終わらせるのであればまだわかります。でも学生を見ていると、早く終わらせて一見うれしそうにしていますが、その後やることを増やし忙しくなって疲れている感じがします。本来、やるべきことを終わらせるにはそれなりに要する「ちょうどいい時間」があり、そのことで生まれる、喜び、楽しさ、やりがい、があるとと思っています。「早いことがうれしい」と感じているうちは、この思いをみずから手離しておりもったいない。時間を早めようとする麻薬に手を染めることはそろそろやめて、自分自身の「ちょうどいい時間」を取り戻す必要があると感じます。前に進むことだけが成長ではない、時には、後戻りすることも成長のひとつと考えるからです。そうすれば、「ちょうどいい時間」は「楽しい時間」に変わるはず。最近、講義の中でこのことを教えています。

それにより、精神的に余裕ができ、もっと楽しい学生生活が送れるはず。さらに、社会人になっても人につぶされずにいい人生を送れるはず。「うれしい」よりも「楽しい」は心を豊かにすると私は信じていたい。絶対に。